

報 告 書

開 催 日 時	令和 7 年 7 月 1 4 日 19 時 30 分 ～ 21 時 30 分		
自治協議会名	花垣地区住民自治協議会	開 催 場 所	花垣地区市民センター
出席議員	福村 教親、市川 岳人、大石 亮子、浅川 友和		
	班 長	福村 教親	記録・報告者 大石 亮子
参加人数	8 名（役員会）		

はじめに会長より

- 地域に人が集まらなくなっている現状が課題。
- 防災講演会に小学生の参加があったことは有意義であった。

1. 環境・ゴミ処理問題

<現状課題>

- 地域にゴミ処理場があるため、イメージ・環境面で課題多い。
- 補助金申請等の窓口が様々でわかりづらい。
- 道路の劣化、安全性の懸念も。

<参加者からの意見>

- ゴミ処理広域化の構想について、具体化していない中で進められているが、本当に 2034 年から新しい施設が操業できるか不安。
- 企業戦略と地域の思いにズレがあり、住民への説明不足。他の自治体のゴミが運ばれてくるが地元のゴミは地元で処理すべきではないか。契約量の増加や広域化への懸念もある。
- クリーンセンター、RDF 破綻の経験から、ゴミは集めるだけ集まるが、そのリスクが高い。
- 関西万博の日本館では水でゴミを処理し、有効活用している。「ゴミ＝汚い」ではなく「役に立つもの」という意識への転換が必要。
- 舞洲のように美しい施設を目指し、大栄環境グループや三重中央開発にも施設転用の提案をしている。
- 搬入量の削減を目指しており、交付金が目的ではない
- 市が他人事であり、主体的に関わっていないように感じる。
- 大型トラックが中央を走るため、路面が傷む。スピード超過も問題。
- ポイ捨てや家電放置が多い。ゴミ処理場があるため、置いていってもいいという誤った認識がある。
- 環境センターの即応性はありがたい。合併でなくなると困る。

< 議会からの意見>

- ごみ処理に関する負担金（トンあたり 1000 円）の引き上げを提案。

- 一般の区民の方との感覚があると思うが、伊賀市内全体で意識を高めていかななくてはいけないのではないか、子供の時から意識を高めていく必要があるのではないか。
- 企業もクリーンなイメージをつけなくてはいけないので、企業に協力してもらうのは良いことだと思う。
- 環境教育、探究授業として、子どもたちと共に取り組んでいくこともできるのではないか。

2. 少子高齢化について、地域イベントの減少について

<現状課題>

- PR活動（例：八重桜）などで地域を盛り上げようとしているが、少子高齢化の波が強い
- 役員等担い手の減少が課題。役職に就いた人の負担が大きい。
- 農業の担い手不足

<参加者の意見>

- 若者が孤立しやすい環境が課題。交通の不便さや、地域活動の担い手の不足も問題。
- 地域行事（夏祭りやスポーツ大会）を通じて帰って来たくなる地域にしていきたい。
- 役員不足は深刻。定年年齢が上がってきているのも問題。
- リーダーシップをとってくれる親世代がいる。
- 若い世代も消防団をメインに参画してくれている。
- 伊賀市には高等教育機関がないことも若者離れの原因ではないか。大学との連携も必要では。
- 市の会合が多すぎるのでは。市の計画は人が多い時のまま動いているのでは。
- （農業について）補助金をもらおうと思ったら、相当のことをしなくてはならない。
- 米騒動による価格高騰はありがたい。農政は国でやることではないか。
- 収支採算があってくれば、担い手も出てくるのではないか。
- 様々な機械が必要で、一つ壊れても他はまだ使えるので修理するが、給料や年金を機械代に回している現状がある。

<議会の意見>

- 新しい農業計画を立てているところであり、議会も見守っている。
- 新規就農の補助金が多いが、継続的に支援していくメニューは少ない。
- 高校生～企業の橋渡し・定着支援等が必要。
- インフラ整備（道路・公園など）や商業施設の充実により、地域に人が根付く環境づくりも考えていかななくてはいけない。

・まとめ

地域の課題（環境、少子高齢化、インフラ、農業）に対して率直な意見が交わされ、住民の生活の質向上と地域の将来に向けた協力の重要性が再確認されました。

伊賀市議会議長 様

令和7年8月14日

上記のとおり、地域意見交換会の概要について報告いたします。

令和7年度 地域意見交換会 7班

班長 福村 教親